

特集◎宮澤市長に聞く

確かな大河に

さらなる飛躍に全力を尽くします。

安曇野市長選が10月15日に行われ、
宮澤宗弘市長が3選しました。
今期を「総仕上げの4年」と話す市長に抱負を聞きました。

―3期目となり、今の気持ちを
聞かせてください。

日本一の安曇野に

これまで常に現場主義を貫き、市民の目線、弱者の立場から額の汗や土の匂いを大切に政治を信条に「北アルプスに育まれ共に響き合う 田園産業都市 安曇野」の未来に向けてまちづくりへの政策を訴えてきました。これからも、市民の皆さまへの説明責任と対話に努めながら、「日本一の安曇野」を目標に、五つの地域が一つとなり安定した確かな大河の

流れとなるよう、総仕上げに向け、
全力で取り組んでまいります。

―市の課題を
どう捉えていますか。

公共施設統廃合などの 大きな課題

健全な財政基盤の上に、高齢者対策を含めた社会保障費の維持、子育て支援や教育振興、産業振興による地域経済の活性化と財源確保、さらに、大きな課題として公共施設の統廃合など、抱える問題は山積しています。

私が就任以降に着手した施設整備は、保育園や図書館を核とする交流学习センターなど、老朽化に伴う改築であり、本庁や支所、防災広場は市民生活に密着した必要な施設の建設であるなど、決して不要な箱物ではありません。また、「新総合体育館」や「安曇野しゃくなげの湯」は、現存する老朽化施設を廃止し、1つに統合した、まさに公共施設統廃合の先駆けとなった事例といえます。

今後も市公共施設再配置計画と整合性を図り、市民の皆さまからのご意見を賜りながら議論を進めてまいります。

―そのような中で、
施策をどのように
進めていきますか？

より丁寧な説明を 積み重ねます

先ほど述べた施設の財源は、議会の議決を得て、国からの交付金の他、合併した自治体だけが借りられる有利な起債、合併特例事業債を活用し、後年度負担に配慮し

た財政計画に基づき執行しています。

地方債の残高は、特例債の活用期限である平成32年度に、償還は平成33年度にピークに達しますが、その後は減少の見通しです。

普通会計における地方債残高は、臨時財政対策債を除き、合併直後の平成18年度末時点の282億6400万円に対して、平成28年度末では、261億2800万円と、21億3600万円の減少です。全会計にあっては、同じく平成

田園産業都市を

皆さまと創ります

18年度末時点の969億6200万円に対し、平成28年度末では840億7400万円と、128億8800万円減少しています。

こういった財政状況も含め、市民の皆さまには、市の施策に対して、十分な説明責任を果たしていく努力が必要だと感じています。

10月23日の初登庁と市長就任式



―最後に今後のまちづくりの展望
をお聞かせください。

ハードからソフトへ 5つのまちづくりを強化

3期目の4年間は、ハードからソフト重視への移行を主眼に、限られた財源の中ではありますが、これまで掲げていた次の「5つのまちづくり」を強化し継続的に取り組んでまいります。

- ①魅力ある産業振興と活力あるまちづくり
- ②健康長寿のまちづくり
- ③豊かな人を育むまちづくり
- ④自然環境を守り、安全・安心のまちづくり
- ⑤協働によるまちづくりと行財政基盤の強化

田園産業都市を市民の皆さまと創り、市民の皆さまと共に生きる「安曇野」を目指し、信頼と負託に応え得るまちづくりに全力を尽くしてまいります。

どうか皆さまのご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

宮澤宗弘 (みやざわ・むねひろ)

プロフィール◎昭和14年豊科高生まれ。南安曇農業高等学校卒。豊科町議会議員（昭和46年～5期）、長野県議会議員（平成3年～5期／県議会副議長・県監査委員などを歴任）、平成21年10月～安曇野市長（現在3期目）



10月31日、改選後、初の議会

特集◎宮澤市長に聞く